

平成 31 年度学校経営の重点等

1 平成 31 年度学校経営の重点

教育目標 変化の激しい時代の社会を生き抜き豊かな人生を送るために、自立して未来に挑戦する態度を育成し、その為に必要な「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を身につけさせる。

教育方針 地域ボランティア活動をはじめとした様々な体験活動により、ふるさとを愛する心を育み、生徒に自己有用感を持たせるとともに、基礎学力の定着や人間関係スキルの習得、ルールやマナーの遵守、モラルの構築など社会性を身につけることで、適切な勤労観、職業感に基づく進路実現など一人ひとりの自己実現に結びつける。

(1) 生徒が自分自身を大切にし、自己実現を図るための取組の充実

ア 生徒を受容し、こころの居場所を提供するとともに、社会人として生活する資質を身につけさせる

(ア) 「北高ホットスペース」を効果的に運営する。

(イ) 「コーピング・リレーションタイム」により人間関係スキルを習得させる。

(ウ) SHR や LHR の充実や全生徒による日常的な清掃活動などにより、社会人としての基本的な生活習慣を身につけさせる。

イ 基礎学力を定着させる取組を充実

(ア) 研究授業・職員研修等を計画的に実施し授業力を向上する。

(イ) 「北高検定」を充実する。

(ウ) 全教科でシラバス及び年間指導計画を作成して、それを基にした授業や評価を実施する。

(エ) ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを研究し、校内の授業にルールを作成する。

(オ) 習熟度別クラス編成による授業を実施する。

(カ) 携帯電話の使用禁止や授業に集中するための規律を確立する。

ウ 進学・就職に直結する「学ぶ仕掛け」を設定

(ア) 英検・漢検等の資格取得を支援する。

(イ) 「コーピング・メソッドタイム」により学習スキルを習得させる。

(ウ) 補習授業を充実する。

(エ) 図書室を整備し読書習慣を身につけさせるとともに図書室を利用した取組を充実する。また、これらの取組をとおして、生徒を活字に慣れ親しませる。

(オ) 自主学習室を設置し、「自主学習に取り組む集団」を育成する。

エ 生徒会活動・部活動をとおして生徒を鍛える

(ア) 生徒会を育て、自主運営の領域を広げる。

(イ) 部活動の活性化を図る。

(2) 生徒が他者を大切にするための取組を充実

ア 安全・安心な学校の体制を構築

(ア) 他者を認め、いじめや暴力を根絶する取り組みを継続する。

(イ) あいさつができるとともに、ルールやマナーを守り、モラルを確立できる生徒を育てる。

(ウ) 兵庫県北部地域における防災拠点校としての取組を行なう。

(エ) 命を大切にする人権教育を推進する。

- (オ) 地域と連携した防災教育を実施する。
- イ 自己有用感を持たせる取組を実施
 - (ア) ボランティア活動に参加する生徒を増やす。
 - (イ) ボランティア活動の質的拡充を図る。
 - (ウ) 大学・大学院との共同研究等をとおして、自己有用感を持たせる取組の在り方を明確にする。
- (3) 信頼され期待される学校づくりの展開
 - ア 育友会・後援会・同窓会・地域との連携を強化
 - イ HPや学校通信、メール配信等を活用し、保護者や地域への広報活動を充実
 - ウ 地域活動に積極的に参加
 - エ 保護者や地域の方々々に学校に来ていただく機会を増加する。
 - オ 入学希望者への情報提供を積極的に実施

2 教科指導及び生徒指導（特別教育活動を含む。）の重点

- (1) 効果的な学習指導
 - ア 全教科でシラバス及び年間指導計画を作成して計画的に授業を実施し、生徒の実態に応じたきめ細やかな学習指導の工夫と、アクティブ・ラーニングを取り入れた本校生に適した効果的な指導方法の研究開発をすすめる。
 - イ 各教科の授業を中心として、本校独自の北高検定や学校設定教科「学び」等を効果的に運用して、生徒の学習習慣の確立と基礎学力の充実を図る。
 - ウ 公開授業エントリーシートや授業見学シートを活用して、オープンスクールを実施するとともに、各教科で設定したテーマをもとにした研究授業とそれに係る授業研究会を実施し、各教科における研究成果を全教員で共有して授業力の向上を図る。
 - エ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを研究し、校内の授業ルールを作成する。
- (2) 人材育成を目的とした教育課程を編成
 - ア 多部制・単位制の利点を生かし、社会が求める人材育成のための教育課程を編成する。
 - イ 各部間の連携を密にし、授業の相互乗り入れを効果的に実施して、高等学校卒業程度認定試験、技能審査、定通連携併修を併せて活用した弾力的な単位修得を進める。
 - ウ 多様な生徒の実態に対応し、特色のある学校設定科目の運用を図る。
- (3) 多様な生徒に配慮した教務規定の運用
 - ア 通常授業、自由選択授業とも、異なる部間での相互乗り入れを全面的に展開する。
 - イ 教務規定の細則、申し合わせ事項等を全職員が十分に理解して、生徒の指導にあたる。
 - ウ 国語と英語を中心として習熟度別クラス編成による授業を実施する。
 - エ 単位修得を伴わない授業の聴講生制度の効果的な運用方法を研究する。
- (4) 学習環境を整備
 - ア 各分掌や委員会が綿密な連携を保ちながら、各生徒の状況を把握し、授業の正常化をさらに進め、中途退学、履修不認定や修得不認定を減らす。
 - イ 生徒の中学時の情報を盛り込んだ生徒情報交換会を活用して、全職員で生徒理解を図る。
 - ウ 心のサポートやコーピング及びオープンスクールでの生徒観察などの取り組みを有効に活用して、生徒の状況を十分に理解した教科指導を展開し、どの生徒にも安心して落ち着いた学習環境を提供する。
 - エ 図書室や職員室前の質問コーナー等の自主学習のための場所を設定する。
- (5) 生徒が自分自身を大切に、自己実現を図るための取組を充実

- ア 生徒を受容し、こころの居場所を提供
 - (ア) 「北高ホットスペース」を効果的に運営する。
 - (イ) 「コーピング」により人間関係スキルを習得させる。
 - (ウ) 1・2部や3部の打合会や職員会議等で生徒情報を共有する。
- イ 学校行事・生徒会活動・部活動をとおして、生徒を鍛える
 - (ア) 生徒会を育て、自主運営の領域を広げる。
 - (イ) 運動部長会・文化部長会を充実させ、部活動の活性化を図る。
 - (ウ) 学校行事の役割の中に生徒を配置し、生徒が活動する領域を広げ、学校行事の充実を図る。
 - (エ) 様々な学校行事を通じて、生徒に挨拶や場に応じた、振るまいなどの作法を身につけさせる。
- ウ 学習に集中できる環境を整備
 - (ア) 授業中、携帯電話の使用禁止や居眠り防止をすることで、授業に集中できる環境を整える。
- (6) 生徒が他者を大切にするための取組を充実
 - ア 安全・安心な教育環境の整備
 - (ア) 他者を認め、いじめや暴力を根絶する取組をおこなう。
 - (イ) あいさつ運動を発展させる。
 - イ 自己有用感を持たせる取組を実施
 - (ア) 全校・部・年次単位で生徒全員にボランティア活動を経験させることにより、自主的にボランティア活動に参加する生徒を増やし、質的拡充を推進する。
 - (イ) ボランティア活動及び防災の教育における拠点校を目指す。
 - ウ 信頼され期待される学校づくり
 - (ア) 育友会・同窓会との連携を強化し、地域への広報活動を行う。
 - (イ) 地域行事に積極的に参加する。
 - エ コーピング、特別支援、教育相談等の教員の資質向上を図る取組の実施
 - (ア) 職員研修会を計画的に実施し、職員の専門性を高める。
 - オ 問題行動を予防するための組織力強化と専門機関との連携の強化
 - (ア) 心のサポート実践研究委員会で生徒指導部、保健部、ボランティア部、教育相談や特別支援の組織の連携強化を図り、大学・大学院との共同研究を通して、自己有用感を持たせる取り組みの在り方を明確にする。

3 健康管理に関する指導の重点

- (1) 生徒の健康管理を充実
 - ア 検診便りを発行し、検診の大切さを理解させ、諸検査の受診率を100%に近づける。
 - イ 自己の体調管理ができるように、状況に合った対応が取れる保健指導を実践する。
 - ウ 学校医と連携し健康診断で異常がみられた生徒を必ず再受診させるよう徹底する。
 - エ 全校生徒対象の健康相談を実施し、健康面・精神面での生徒支援に繋げる。
 - オ 生徒情報を迅速に把握し、その対応について職員に周知する。
- (2) 教育相談を充実
 - ア 年間32回のカウンセリングデーを活用し、生徒の精神面での支援を充実する。
 - イ キャンパスカウンセラーによるカウンセリングマインドの予防プログラムを実施する。
- (3) 安全な生活環境を整備
 - ア 安全点検を計画的に実施し、安全な学校環境の維持に努める。
 - イ 救急時の対応についての職員研修会を実施し、生徒の安全確保を図る。
- (4) 学校保健安全に関する組織を確立

- ア 学校保健委員会の活性化を図り、学校保健に関する組織活動を充実させる。
- イ 生徒情報連絡会など1部・2部・3部が連携して生徒理解に努め、その対応にあたる。

4 研究テーマ

(1) 学習指導法を研究

ア 「ことばの力」をテーマとした研究授業を全教科に拡充して実施し、各教科の取組成果を全職員で共有する。授業研究会は、ワークショップ型研修会の形態で実施し、より活発な議論を展開する。

(2) 北高検定を効果的に運用

ア 北高検定のための自主学習時間を設定する。

イ 検定試験結果の集計と分析を共有し指導することで、生徒の検定試験合格に向けての意欲をさらに喚起し、組織的な取組を進める。

(3) コーピングによる人間関係の習得

ア 学校設定教科「コーピング」における学校設定科目「コーピング」の教材開発を進める。

イ 人間関係構築のための「コーピング・リレーションタイム」により効果的な人間関係スキルを習得させる。

ウ 学習スキルを学ぶ「コーピング・メソッドタイム」により、学習方法を身につけ、生徒の基礎学力を充実させる。

(4) ボランティア活動の科学的分析

ア 大学・大学院との共同研究により、「ボランティア活動は自己有用感と学校適応力を高めるための有用な活動である。」との仮説を数値的に検証する。

(5) 図書館を整備し、図書室の利用を促進

ア 教科の学習や生徒の活動に資する書籍を増やし、各教科での図書室を活用した指導の充実に努める。

イ 「ブックトーク」や「ビブリオバトル」、「読み聞かせ」、「ボードゲーム大会」など、生徒の主体的な活動により、伝える力、受け取る力というコミュニケーションの基礎を身につけさせ、「ことばの力」の育成に根ざしたアクティブラーニングに発展させる。

(6) 人権尊重の精神の醸成

ア 「生徒が自分自身を大切にし、自己実現を図る」こと、「生徒が人を大切にすること」を教育方針とし、あらゆる教育活動を通じた人権教育の実践

(ア) あらゆる人権課題において、人権尊重の第一歩である「まず知識として知る」という観点に立って学ぶ。

(イ) ボランティア活動や生活体験発表を実施し、自己有用感を高める。

イ 生徒に自分や他者の人権に気づかせ、生命の尊さを実感させる取り組みを推進する。

(ア) 福祉体験講演会、異文化理解講演会を実施することで、他者の経験を自分のこととして学ぶ。

(イ) 障害者に関わるLHRを実施することで自他の生命の尊厳を学ぶ。

(ウ) 人権標語を考えることで、人権尊重の意識を形にして確かめ合う環境を作る。

(7) 通級による指導を通じてインクルーシブ教育のシステム構築と多様な学びの場を整備

ア 生徒の社会での自立や社会参加に向けて、多様な教育ニーズを把握し、持てる力を高め、学習上または生活上の困難を克服するための適切な指導及び支援を行う。

イ 中学校と連携を図ることにより、効果的な配慮事項の共通理解や本校での配慮や支援体制の構築に向けて内容を検討する。

5 高校生ふるさと貢献活動事業で実施する内容

(1) 活動のねらい

- ア 地域の教育力を活用し、ボランティア活動に積極的に取り組むことで、生徒の自己有用感を高め、自信や誇りを身につけさせる。
- イ 地域とのつながりを深めることで学校への信頼を高め、学校の活性化につなげる。

(2) 年間100回以上の地域ボランティア活動を実施

- ア 地域で行われている様々な催しに参加させるとともに、地域に新しい文化を発信し、高校生が地域おこしの役割を担わせる

(ア) 全校生がボランティア部に入部し、人材バンク制をとることで生徒が希望する活動に参加させる。

(イ) 主な活動

- a 花いっぱい運動
- b 交通安全運動キャンペーン
- c 絵本読み聞かせ活動
- d 地域の銘木「日野の郷地蔵一本桜」を地域とともに守る活動
- e ふるさとクリーンキャンペーン
- f ふるさと貢献活動PR
- g いきいき福祉ボランティア

6 高校生就業体験事業で実施する内容

(1) 進路ガイダンスにより、自らの勤労観・職業観について価値観を形成

- ア 様々な分野の大学や短期大学、専門学校に加え、職業人を招き、講話やガイダンスを受け、上級学校に関する知識を身につけさせ、学ぶことや働くことの意味について考察させる。
- イ 模擬就職面接を体験し、実践経験を持たせる。

(2) 上級学校見学・企業見学を実施し、自らの勤労観・職業観について価値観を形成

- ア 進路希望に応じて、学校(大学、短大、専門学校等)、企業(営業所、工場等)の見学会を催す。
- イ 収集した企業・上級学校等の様々な情報を整理し、それに基づいて自分の将来について暫定的に決定してレポートを作成させる。

(3) 職業体験セミナーに参加することで自らの勤労観・職業観について価値観を形成

- ア 国家資格が必要な仕事をはじめ、様々な仕事内容やその専門性、上級学校での学習内容を知ること、将来の職業について深く考えさせる。

(4) インターンシップの充実

- ア インターンシップの達成率100%を目指す。
- イ 進路(就職・進学)情報を適切に提供し、早いうちから生徒の主体的な進路選択を支援し、インターンシップへ繋げ、就職後のミスマッチを防止する。

7 高校生キャリアノートの活用に関する内容

(1) 1年次おける活用

- ア 高校生や人生をデザインし、自らの個性を確認し自己分析を行うことで、学ぶ意義を考える。
- イ 人間関係を形成するためのスキルを身につける。
- ウ ボランティアを体験し、その意義について学ぶ。

(2) 2年次、3年次での活用

- ア 職業について調べ、働くことの意味を考える。
- イ 自己の価値観と人生における働くことの意味を探求する。

(3) 主に卒業年次での活用

- ア インターンシップを通して仕事の特徴を理解し、自らの選択によって進学先や就職先を選択する力を身につける。
- イ 社会人としてのマナーを身につけ、自己 PR ができる力を育成する。

8 県立高校特色づくり推進事業～インスパイア・ハイスクール～で実施できる内容

(1) 各年次に対応した事業を推進し、将来の自分を見据えたキャリア計画の立案

- ア 「事故の生き方を考える」ことを狙いとして進路ガイダンスを行う。
- イ 「自らの勤労観・職業観」の形成を図りことを狙いとして進路ガイダンスを行う。
- ウ 「自らの勤労観・職業観」を深めることを狙いとして上級学校見学・企業見学を行う。
- エ 「自らの勤労観・職業観」を幅広く形成させるために、職業体験セミナーへ参加させる。